

(様式 1)

令和 5 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中川小学校
校長名	三ヶ島 誠一郎

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学年の状況では2、3、5年で全教科、全国平均正答率を上回った。全学年が全教科で目標値を同程度以上、上回る評価となった。授業や家庭学習での繰り返し学習が、学力の定着につながっている。・全学年、全教科で「活用」の目標値を同程度以上、上回る評価となった。授業の中で、発展的な課題や児童の主体性を生かした学習活動を取り入れたことが活用力の育成につながった。	<ul style="list-style-type: none">・4年は国語、社会、理科が6年は社会と算数が全国平均正答率に達しなかった。特に4年の社会では「知識・技能」が5.4ポイント、「基礎」が全国平均正答率を5.3ポイント下回った。基礎的な知識の定着が課題である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・3、5、6年で「他者からの評価」「発信力」「対話・話し合い」「生活習慣」「学習意欲」「学級の規範意識」に関する設問への答えは、全国平均より高い。・4、5年で「友だちのささえ」に関する設問への答えは、全国平均より高い。	<ul style="list-style-type: none">・「対話・話し合い」は、学年ごとのスコアに差が出ている。発信力と共に、どの学年でも、今後力を付け、自信をもたせることが課題である・3、4、6年生とも学習習慣が全国平均以下であった。さらに家庭学習習慣を意識させることが課題である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果					課 題
	小3	小4	小5	小6	<ul style="list-style-type: none">・6年生については卒業までに、4年生の学習内容の平均正答率90%になるようにし、確実に身に付けさせる。・4年から学年が上がるにつれ、正答率も上がることが望まれる。そのためには、「ミライシード」やふりかえりシートを活用し、習熟が十分でない分野について、着実に基礎基本の力を伸ばすことが課題である。・3年生が受けた診断シートは、今後の算数・
平均正答率	85%	75%	71%	72%	
満点割合	10%	15%	8%	5%	
東京ベーシックドリル「診断シート」令和4年5月実施					
<ul style="list-style-type: none">・前期(5月)に東京ベーシックドリル算数の診断シートを3～6年について実施した。5年生以上は、4年生の「診断シート」を使用し、					

<p>平均正答率及び満点の割合を算出した。</p> <p>・各学年で6年生以外は正答率・満点率とも上昇が見えた。6年生も同一集団での伸びを見ると上昇している。</p>	<p>数学の基礎となるものであることから、平均正答率90%以上を目指す。</p>
---	--

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎的・基本的な学習内容の定着

- ① 「中川スタンダード」をもとに授業規律を定着させる。めあてとまとめ（ふりかえり）は毎時間記載し、この時間で何を学ぶのか、どんな力をつけるのかをはっきりさせた授業を展開する。
- ② 基礎学力の向上を目指して本校独自の校内学力調査を年2回（4月と3月）実施する。学校独自の調査問題を作成し、基礎・基本の定着に向けた学力調査を実施し、定着度を検証していく。
- ③ 朝学習の時間（8：25～8：40）に、算数タイム（計算・文章問題プリント）、国語タイム（漢字・読解プリント）、読書タイムを毎週設定し、計画的に実施する。
- ④ 算数習熟度別指導の充実を図る。單元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態に応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。特に、基礎の定着を十分に行う必要がある児童に対しては、原則10人以下の少人数のクラスとし、個に応じた支援の充実を図る。
- ⑤ 理科の観察・実験を充実させ、実感を伴った学習を推進する。学習を通して実生活での生かし方を感じられるようにし、自然の事物・現象と知識・理解とを関連付けた指導を行う。学習の進め方や各学年の重点を掲示することで、思考の流れと課題解決を関連付けた学習を進める。実験や観察をしたことだけで帰結することがないように、その実験・観察から何が学べたのかまでしっかり身に付けられるように指導する。
- ⑥ 社会の学習では問題解決学習を充実させ、自分たちの設定した課題に対して主体的に学ぶ機会を増やす。また振り返りの場面をしっかり行い、学習した内容の定着を行う。
- ⑦ 授業中や家庭学習において、「ふりかえりシート」やミライシード、まるぐランド、よむYOMUワークシートを活用している。課題を分析し、内容によっては定期的にアウトプットの機会を設けることで基礎的な知識の確実な習得に力を入れる。

(2) 思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫

- ① 校内研究を通して、教員の授業力向上を図り、「主体的・対話的な深い学び」に基づく授業改善を図る。研究主題『主体的にかかわり合い学び合う児童の育成 ～「読むこと」から始める「述べる」「伝え合う」「説明する」～』を設定し、国語科を中心に各学年が授業研究を行い、教師一人一人の授業力を高め、児童の学力向上を図る。
- ② 理科や社会において、資料や実験結果、事象などから自分なりの考えをもち、タブレット端末のロイロノート等を活用しながら意見の共有や発表をし合う機会を意図的に授業に取り込んでいく。根拠に基づいた話し合いを通して、知識をより確かなものにししながら、思考力・判断力・表現力を高める指導を行う。
- ③ 毎週の朝読書に加え、読書月間を実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにする。学校図書館司書を活用し、日常的に本に触れる機会を設け、「読み取る力」を育成する。「調べ

る学習コンクール」の期間と合わせ、特別コーナーを設けることでより作品作りへのイメージをもちやすくする。

- ④ タブレット端末を、あらゆる教育活動で活用する。GIGA支援員やICTリーダーによる研修を定期的に行ったり、活用例を共有したりして使用場面を拡大する。個に応じた学習の推進や、学び合いまた、自分の意見を発表するアウトプットの場面を日々の教育活動の中で意識的に増やしていく。

(3) 家庭学習習慣の確立

- ① 毎日、一定量の家庭学習課題を出し、学習習慣を確立させる。低・中学年においては保護者にチェックをお願いし、保護者に対しても家庭学習への意識をもたせ、児童と一緒に取り組むことで家庭での学習習慣を定着させる。
- ② 授業の学習内容については、宿題として単元の確認問題や「ふりかえりシート」、ミライシード等を繰り返し活用し定着を図る。宿題は、タブレット端末とノートを併用し、その内容にとって効果が高い方法を担任が考え組み合わせていく。翌日には必ず内容を確認し、習熟・理解ができていない児童については、個別に指導していく。家庭学習は国語・算数を中心に計画的に行い、中・高学年では、社会・理科を含め実施する。理科・社会の学習内容定着のために「問題データベース」も活用する。
- ③ 「早寝、早起き、朝ごはん」を家庭で徹底させることで、家庭での生活習慣を整え学習に向き合う態度を育てる。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・国語と算数と理科は全学年において、全観点で、全国平均正答率より2ポイント以上高い成果を目指す。
- ・社会については、学年間の差をなくし、全学年の全観点で全国平均正答率以上高い成果を目指す。